

時以内ハニ割増ノ事

正社員ニ見舞金トシテ金三百円支給スル事

正社員ニ對シテ慰勞金トシテ金百五十円支給スル事

如左ノ書ハニ通作成シ佐藤鉄工所及東京合同労働組合

ニ一函宛シテ保護スルモノトス

昭和二十一年拾月廿日

佐藤鉄工所主

佐藤長三郎

東京合同労働組合

島藤経

職ニ代表

杉山良次

右及申(通)報候也

鋼管の全従業員諸君奮起せよ!! 併して会社の偽瞞的昇給を糾弾せよ!!

「鋼管會社」云へば世間の人々は、あの恐ろしい地獄の様な處で多くの労働者が汗みどろになつて働いて居る所であると思起するであろう。俗語に「金と命の鋼管(交換)か」云よく歌はれて居る會社である。

此の會社は、日本に於ける製鋼業界の大立物である。然るに現在の鋼管會社の實狀は、前記の風説をして事實たらしめて居る

製鋼産業は吾國に於て最も重要な産業にして政府は常に獎勵に盡力して居るのである

産業進展と鋼管會社

如何なる産業と雖も資本の力や精銳なる機械器具の整備のみにて産業の進展を計り得るものには無い。即ち産業の創始者であり支持者である我等労働階級の健全なる労働なくして断じて進展するものには無い。鋼管會社に於てもそうである。全従業員の健全なる労働力を失しめて何で作業の能率が増進されよう。

然るに會社は従業員を搾取し虐使することを以つてのみ利益を計らんとして居る、利益は即ち能率増進を意味するものである。

従業員虐使の暴狀

現在會社の労働条件の劣悪なところは云ふ迄も無いことであるが、事更一例を擧げるならば鋼管事業は他會社に於て見るここの出来ない特殊性が有る。それは作業が頗る危険であることである。神奈川県下に於て傷害率が第一位を示して居る云ふ事實に拘らず、現鋼管に於ける工場設備はどうか、之又他に見る事の出来ぬ不完全なる設備ではないか、爲に毎日重傷、若死傷者が續出し輕傷者の如きは實に驚く可き程出て居る。然るに會社は此の尊い犠牲者に對し充分なる療養設備も施さず重傷者の如きは僅かの傷害手當を以て「お前は仕事が出来なくなつたから」云つて平氣で解雇をして居る、昨年七月十數名の傷害疾病者を憐愍にも解雇した事實は諸君の記憶に新たなる處であらう。之は單に傷害者の問題であるが其の袖従來取り來つた會社の暴狀は實に慘酷極まるものであつた。従業員が新機な機遇から逃れんとして労働組合に加入するならば會社は常に威嚇的態度を以つて彈壓して來た即ち従業員を永久に奴隷使する爲であつた。

今回の偽瞞的昇給を暴露す